

第二章

誇りを繋ぐ

人が行き、時が移る。
町の繁栄に希望を見いだしてきた半世紀。
その歩みには誇りが満ちあふれていた。

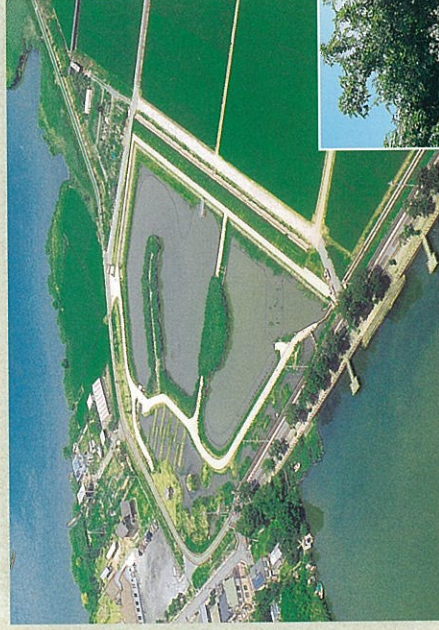
Y.K.K.
ハタザツシ
住宅用



●北川 (昭和62年)



●常浜水辺公園 (平成6年)



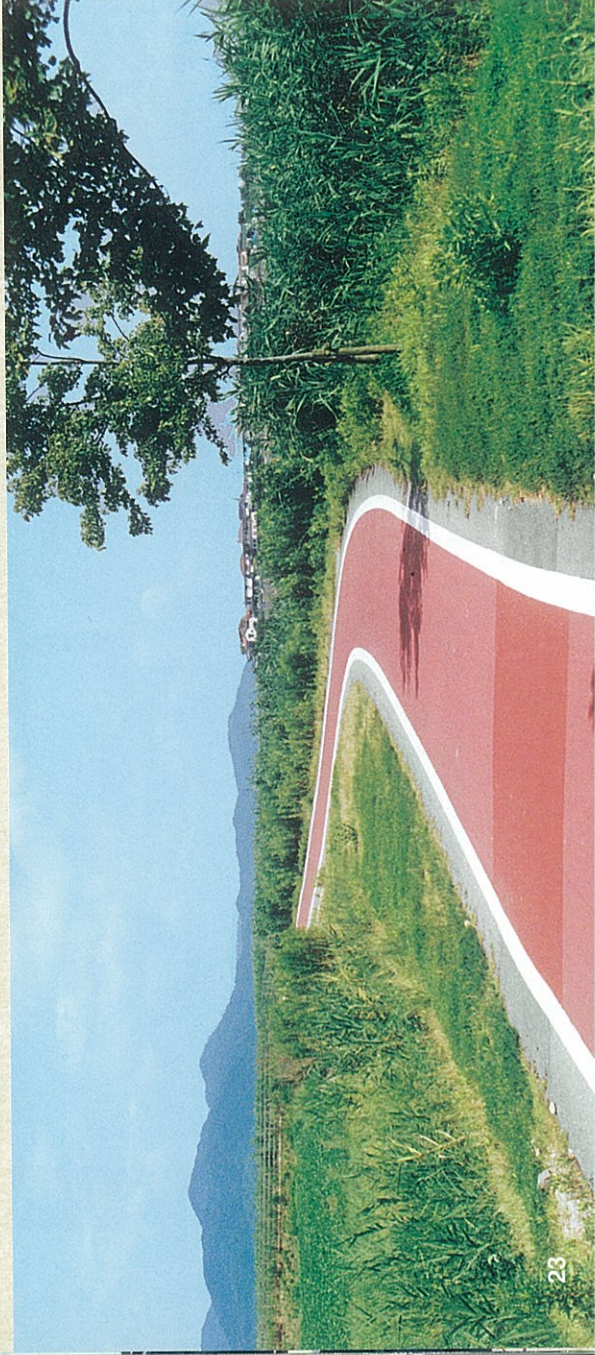
●よしきりの池 (平成16年)



●西の湖散歩道 (平成3年)



●歴史の道10kmコース (昭和58年)



●よし笛ロード (昭和63年)

郷土の変遷



写真で見る



●天主タワー (昭和63年)



●織田信長公像完成 (平成3年)

16世紀 政治、経済、芸術、文化、思想などさまざまな分野にわたり発展を遂げた安土。そこで、まちの歴史、文化を後世に伝え、訪れる人々に安土のすばらしさを理解していただくために、玄関口であるJR安土駅前の整備が行われました。昭和62年、JR安土駅前広場整備事業に着工し、翌年には安土町城郭資料館や楽市館、天主タワーなどが続々

歴史と自然を活かしたまちづくり

と完成。平成3年にはJR安土駅北広場が竣工しました。それらはただ単に、交通ターミナルとしての機能を整備するのではなく、「歴史のまち安土」にふさわしいまちづくりでした。安土桃山時代の町並みが、点景としてではなく、広場を囲みながら総合的、連続的景観となるよう配置されていました。また、常浜水辺公園や、よし笛ロードなど、水辺と住民の生活空間が一体となる自然環境を活かしたまちづくりが進められてきました。安土町ならではの景観が今もなお、暮らしに憩いと潤いをあたえています。



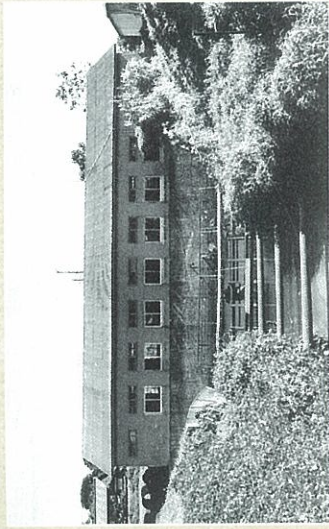
●安土町城郭資料館 (昭和63年)



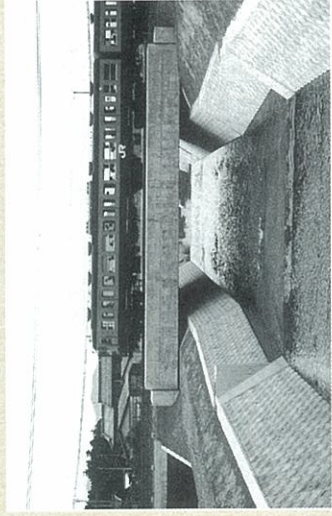
●資料館の安土城模型 (平成元年)



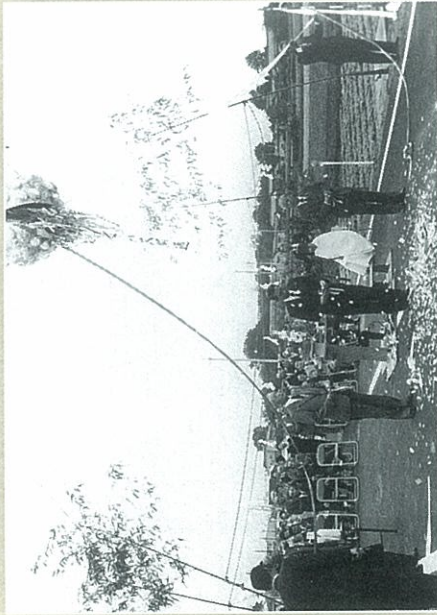
●楽市館 (昭和63年)



● 山本川JR貫通前（平成3年解体）



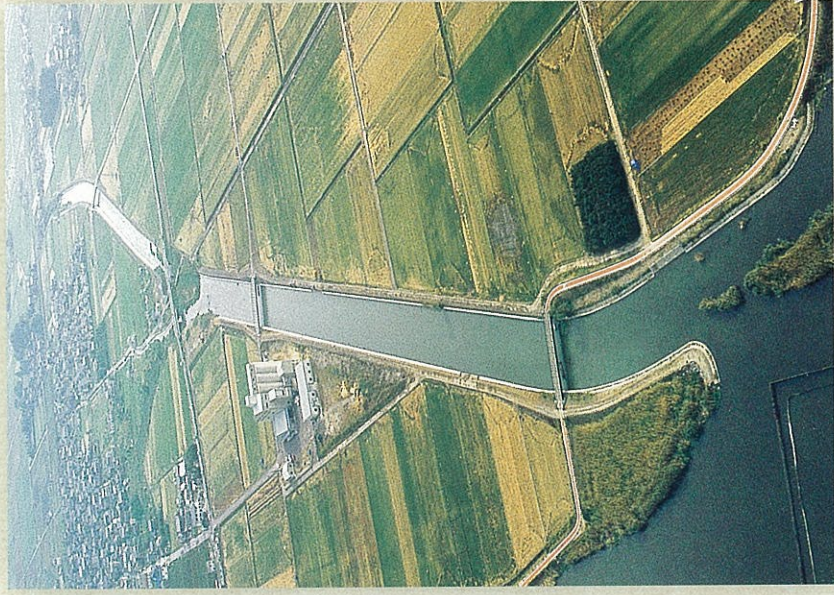
● 山本川JR貫通後（平成6年）



● 内野バイパス完成（昭和56年）



● 鳥打越道路開通（昭和58年）



● 改修された山本川の西の湖河口付近（平成2年）



● 都市計画街路事業
県道下豊浦鷹飼線
（昭和61年～平成6年）

水と道の交差点

2

写真で見る

郷土の変遷

安土町では古くから、豊富な地下水と西の湖の恵を受け、生活文化が受け継がれてきました。生活の一部となってきた水は今も変わらず、私たちの生活の中ではなくまれば続いています。

そして、町内に流れる河川や水路とともに縦横するのが多くの生活道路です。まちの動脈である国道8号をはじめ、旧国鉄（現在のJF）駅舎につながる道、県道安土西生来線などの県道、数多くの町道が毎年のように整備され、まちに活力を、人々に利便性をも

たらしてきました。

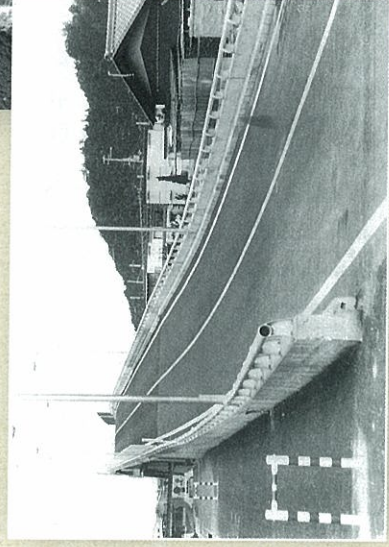
水のある所に文化が、人のある所に歴史があります。そして、

道のある所に繁栄があります。

過去に度々冠水が発生していた山本川や、各河川の護岸整備、城下町の景観を守りながら整備されてきた交通などの都市基盤。少しでも暮らしやすい安土町にするため、常に町が動き、快適を生みだしてきました。そんな町の歴史にこそ、人々の英知と絆の深さを感じずにはられません。



● 昭和46年当時の安土町の道路状況



● 県道安土西生来線高架橋・地下道完成（昭和55年）



● 上豊浦踏切（昭和63年閉鎖）



写真で見る

郷土の変遷

3

産業の振興

安土は豊かな自然に恵まれ、その肥沃な大地は米づくりに適していました。その証として、大中の湖南遺跡では弥生時代中期に、豊かな自然条件のもとで広域的な稲作が営まれていたことがわかっています。

かつてこの地では、中の湖（大中の湖・小中の湖）や西の湖で漁業やイケチヨウガイによる真珠の養殖も行われていました。

戦後に行われた大中の湖干拓事業では、安土の農地面積をさらに広げ、近代農業の幕開けとなり、農業大学校や農業試験場も建ち並びました。

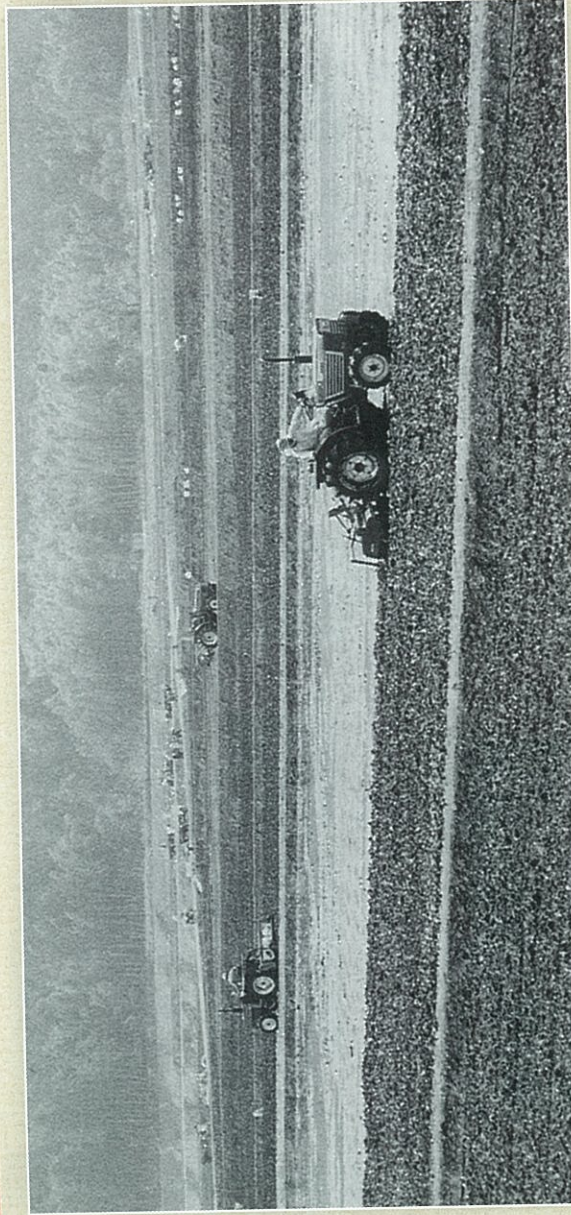
そして、消費者の多様なニーズに対応するため、スイカやメロンなどの高級な農作物に加え、トマトやかぶらなどの多種類の野菜が栽培され、安土独自の農業形態を生みだしてきました。

また、松阪牛や神戸牛と並び称される近江牛が多頭飼育され、中でも大中部で生産される近江大中生は、日本一の栄冠にも輝いています。豚や採卵鶏については、県内の半数近くを町内で飼育しています。

その他、ミツバなどの水耕栽培を始め、観葉植物などの栽培も行われています。



●干拓前の大中の湖周辺



●安土南部地区ほ場整備事業（平成18年完成）



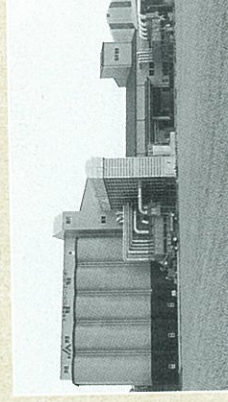
●大中生牛生産団地完成（昭和48年）



●水耕温室栽培施設団地完成（昭和51年）



●安土観葉温室団地完成（昭和59年）



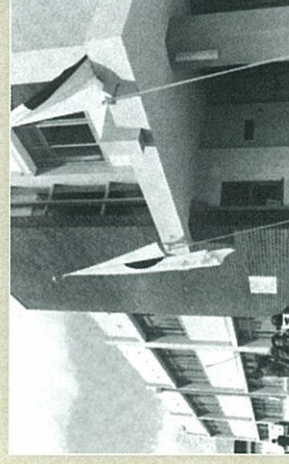
●大中の湖農協カントリーエレベーター完成（平成6年）



●国道沿いの工業団地



●県立農業試験場完成（昭和49年）



●県立農業大学校開校（昭和44年）



● 安土町保健センター
(平成4年)



● 福祉自動車による送迎サービス



● 福祉自動車 (平成8年)



● 安土町デイサービスセンター (平成7年)



● デイサービスセンター浴室



● 健康づくりセンター元気園 (平成7年完成・平成14年から悠々元気園)



● 悠々元気園リハビリプール

福祉の まちづくり

4

写真で見る

郷土の変遷

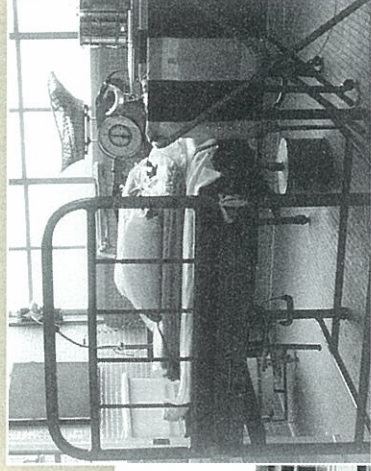
安らぎの土地と書いて安土。
この地に住む人々全員が心身
ともに幸せであってほしい。
そんな想いのもと、福祉のま
ちづくりが進められています。

安土町が誕生し最初の拠点
となる母子健康センターが開
設され、妊婦健診や母親教室
に続いて、乳幼児健診、各種
がん検診、成人病検診が始め
られました。

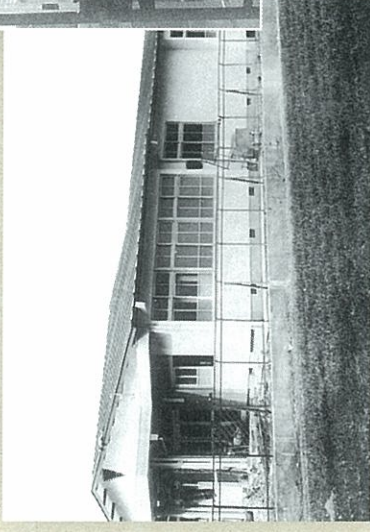
その後、名称が安土町健康
センターと変わり、やがて、
さらなる新しい拠点施設とし
て安土町保健センターと安土
町デイサービスセンター、在
宅介護支援センターがオーブ

ンしました。この保健センタ
ーでは従来の検診や健康診断
の他、子育て支援や在宅幼児
の保育指導なども行われ、幼
児の健やかな成長を見守る安
土町ならではのスタイルをは
ぐくみました。また、デイサ
ービスセンターなどでは、在
宅介護を支援するため、入浴
サービスや福祉自動車での送
迎サービスも行われました。

その他、高齢者がいきいき
と集える環境づくりとして風
光明媚な西の湖畔に安土町や
すらぎホールが、箕作山の裾
野には健康づくりセンター元
気園がオープンしました。



● 母子健康センター内部



● 開設当時の母子健康センター (昭和40年)

● やすらぎホール (平成2年)

